



▲ホストファミリーのロビンソンさん一家に囲まれて。



▲みんなでオーストラリアのまちを満喫しました。



▲レッドクリフの生徒ともすっかりうち解けました。



りゅうだ よしふみ
流田 祥史

(厚狭中学校 3 年)

「心を伝えあおうとすれば 言葉が通じなくてもわかりあえる」

僕達がレッドクリフに行ったのは7月31日。日本は夏ですが、オーストラリアは冬。英語がちゃんと話せるか不安だった心に冬の寒さが加わって余計に不安な気持ちになりました。

しかし、ホストファミリーの方々は、とても温かく僕達を迎えてくれて、不安だった気持ちもどこかへ消えてしまいました。しかし、そうはいっても全てが英語なので自分は何をしたいのか、何が欲しいのかなど、自分の意志を伝えるのも大変でした。また、オーストラリアの英語は、学校で習う発音とは違うところがあるので慣れるまで3日かかりました。でも、ホストファミリーや現地の友達は、片言の英語で何かを伝えようとする僕の言葉を一生懸命聞いてわかろうとしてくれたり、話すときにゆっくりと話してくれました。現地の人と自分は顔や髪の色が違うところはいろいろあるけど、相手の気持ちと自分たちの気持ちを心を通して伝えあおうとすれば言葉が通じなくてもわかりあえることが分かりました。英語を勉強するより、相手の文化を理解し、まず、心を伝えあおうとすることが大切だと、今回のホームステイで学びました。今回オーストラリアでホームステイをして過ごした時間、出会った人々、僕にとってオーストラリア滞在中のすべてのことが最高の思い出であり、一生で最高の宝物です。

オーストラリアに行けて本当に良かったと心から思います。



えざわ なや
江澤 那耶

(慶進中学校 2 年)

「思い出し笑いしてしまうほどの 宝物になった経験」

今回、私がこうしてオーストラリアに安心して行ってこれたのは、市の方々、先生、両親やまわりの大人の方々が協力してくださったおかげです。

オーストラリアに行った2週間はあっという間に過ぎ、まるで夢をみているようでした。どれもこれも全てとっても楽しかったです。でも、やっぱり1番楽しかったことは、学校で皆と騒いだり、ホームステイ先で過ごした時間です。そして何よりも私のパディ(※)でもある、ホームステイ先の女の子、キャサリンと遊んで過ごした時間が、私が一番大切にしたい思い出です。

どうやって伝えればいいのか分からない時、皆頑張って理解しようとしてくれたり、とても優しい方々でした。慣れてくると、騒いだりして行動でコミュニケーションをとりました。その方がもっと仲良くなれたし、自分自身も楽しかったです。からかいあったり、冗談を言い合ったり、思い出し笑いをしてしまういい思い出です。向こうの人と日本人の考えは少し違いましたし生活習慣もたくさん違うところがありました。でも少しは理解できた気がします。たくさん友達もできました。英語に興味を持てたし、何よりも視野が大きく広がり、自分の世界も大きくなりました。こんな素敵な経験をさせていただいてありがとうございました。

※ ペアになって学校内で一緒に行動し、学校生活をサポートしてくれる生徒